和歌山版 2021年6月6日 産経新聞 朝刊

小型鯨類飼育施設を備える 太地町立博物館から

定)の糸口となる便の採取に 調査の末、種同定(種の特 度の高い調査ができる皮膚を べたほか、便よりもさらに精 成功しましたが、その後、迷 如姿を見せるようになった種 太地町森浦湾に、2019 こはありませんでした。 採取でき、結局便を調べるこ 不明の「迷いイルカ」。追跡 (令和元)年11月30日から突 イルカに接触して生態を調 この迷いイルカ騒動が新た

森浦湾の迷いイルカ(3)



結果は得られず、種同定には

部位を計測し調査しました 献を参考に、迷いイルカの各

が、どちらの種か、一貫した

迷いイルカを調べる

ナミハンドウイルカの2種が 徴から、バンドウイルカとミ でした。外形や体色などの特

うです。比較的長いクチバシ 間であることは間違いなさそ 属するハンドウイルカ属の仲 し腹部の黒い斑点模様はミナ

の網を挟んで築き上げてきた 内での暮らしにおいて、一枚 文字通り垣根を越えたのでし 飼育イルカとの社会関係が、

致しました。

しかし、腹部黒斑は出生数

ミハンドウイルカの特徴と一

斑は体長に対しずっと少ない 持ちますが、迷いイルカの黒 年後から出現し増える性質を

ようです。

的行動を繰り返しました。湾 をこするラビングなどの親和

わけではなさそうです。 も衰弱して湾内に迷い込んだ 遇の機会を逃す手はないと 私たち飼育員は、この千載 で近づいてきた迷いイルカ。 に、外部形態の調査です。 態も良いことから、少なくと から異常は見られず、栄養状 探りました。 得られた検査値 足と血液採取から健康状態を の謎解きです。まず、体温測 詳細な調査を実施しました。 -ルカ専用の担架に収容し 体長237秒の雄のイルカ かくして、手の届く距離ま いよいよ、迷いイルカ正体

> が報告されています。その文 形態に明確な違いがあること

ンドウイルカ属2種間で外部

また、過去の研究から、ハ

解析の結果を待ちます。 も簡便で多くの細胞が取れる 皮膚を採取できたので、その 至りませんでした。 いた遺伝子解析です。便より 残された手段はDNAを用

原則第1日曜日に掲載しま

(太地町立くじらの博物館 稲森大樹

ら生け簣に入り込み:

のバンドウイルカのところ。 早速行動をともにし、呼吸を

合わせる同調呼吸や体の一部

ョンをとることが多かった雄

は、網越しにコミュニケーシ

脇目も振らず向かったの

目ら入り込んだのです。

日、湾内の小型鯨類を飼育す 020 (令和2) 年2月14 な展開を迎えたからです。2

る網生け簀に、迷いイルカが